



鳴沢村の観光案内所の調査をする様子

第2の段階だ。まとめてみると案外解決策は簡単なものがでてくる。たとえば、見えるところにあるパンフレットを減らすとか、インスタ映えするスポットをまとめたルートマップを作成するなどだ。どれも現状に少し手を加えるだけでよく、コストもかからず現実的だ。そして、第3段階として、実際のデータを基にしながら、

私は昨年、山梨大学に進学し、あるプロジェクトに取り組んでいる。それは、山梨県鳴沢村の観光をプロデュースするプロジェクトだ。これは地域課題解決科目と指定された実践型学習プログラムのひとつである。

現在、文科省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の一環として、地域課題解決科目という実践型学習プログラムが多くの地方の国公立大学で行われている。COCとはcenter of communityの略で、地方大学が地域の中心となり、地域社会の課題解決をしていくことを目指している。山梨大学でも同様の事業が

フレッシュトーク

エネルギーに新生活を謳歌する若者たちが「いま」を語る。

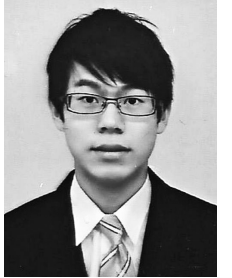
地域の課題解決に取り組む

木村優也 (高69回)

山梨大学生命環境学部地域社会システム学科2年

●きむら・ゆうや

高森町出身。高校では自治会副会長。甲府市在住。現在は、飯伊地区の高校生による地域活動を応援するフリーペーパーの制作を学生団体として行っている。趣味は釣り、映画鑑賞、Twitterなど。



行われ、観光やコンピューターなど多岐にわたる分野で実践的な学習プログラムが提供されている。

私の参加するプロジェクトでは、鳴沢村の観光産業における課題を発見し、その解決策を提案しながら観光をプロデュースしていくという取り組みを行った。私がこの科目を履修した理由は、リニア駅が建設される飯田市が、この鳴沢村と同じ問題を抱えていると思ったからだ。鳴沢村は、観光地として名高い富士山の麓にありながら、広報の弱さや観光意識の低さなどの様々な課題から観光ルートの通過点になっている。これは、飯田市にも共通する問題だと思い、地元貢献できればという気持ちもあって、参加することにした。

本プロジェクトは4段階で構成されている。まず、調査である。どんな課題があるのかを知るために、施設の見学や実際の来訪者の人数データを収集し、一方で地元民が気付いていない観光資源を探すことを行い、両面的なアプローチで地域の潜在能力を調査した。実際に調べてみると様々な課題が見つかる。たとえば、膨大な種類のパンフレットが観光案内所に置いてあるためどれを手にとったらいいか全くわからない。そのため、観光客はさつさと次の目的地に向かってしまおうといったことだ。

これらの課題を分析し、解決策について模索するのが村や県の関係者に提案をしていき、第4段階ではその人らの意見も取り入れつつ、実際に解決策を実施していく。昨年度は、第3段階までしか進まなかったが、これから順次進めていく予定だ。

プロジェクトに取り組んでみて、私は高校時代の経験が活かされていると感じた。高校時代、若者の選挙投票率が低いという危機感から飯田下伊那の高校生の投票率を100%にすべく、「飯田下伊那100計画」を立ち上げた。高校生へのアンケートから投票率を予測して、投票率が低い原因を分析したり、SNSやイベントを行ったりするなど、投票率向上のための活動をした。振り返ると課題解決科目の手法そのまま、貴重な経験だったと改めて実感する。教育現場と政治のしがらみの中で実現が大変難しい活動だったと思うが、その活動を見守ってくださった飯田高校の先生方には改めて感謝を申し上げます。

最後になるが、将来は、地域問題解決に携わることで培った知識や経験を生かして、NHKのディレクターとして地方の様々な問題の現状や新たな取り組みを全国に発信する仕事をしたいと思っている。これからも大学という場を有効に活用して、新たな発見と共に自分の力を磨いていきたい。